

Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

CONTENTS

第42回定例セミナー報告

第43回定例セミナー報告

第3回全国大会ご案内

12月の活動・参加申込書

Vol.27 2009年12月1日発行

■発行・編集／株農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局(担当:長谷川)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

第42回定例セミナー報告

オーストラリア・ビクトリア州で Made by Japanese を考える
〜世界の食料庫における農業経営の可能性〜

11月2日開催の第42回定例セミナー

ではオーストラリア・ビクトリア州政府
第一次産業省農務局アドバイザーの鈴木
洋司氏と同ディレクターの樽本英一郎氏
に講演をお願いした。当日はビクトリ
ア州のマーケットの概要、鈴木氏自身の
同州でのビジネスの展開をお話いただい
た。

同州の農業人口はまだ、先祖代々農
業をやってきた白人がメインではある
が、ベトナムや旧ロシア出身者も増えて
いる。彼らは言葉の障壁を乗り越えて

現地で農業経営を行い、生産したもの
を国内販売、さらには輸出まで手がけ
ているという。

「日本人が日本の農産物を海外で売
るのは、いろいろな障壁があるかと思
います。しかし、オーストラリアでは外
国人が農産物を作り、国内で売り、
なおかつ第3国にも売っています。」

鈴木氏は日本の農業者にとつての、
オーストラリア市場における優位性につ
いて解説した。オーストラリアで流通し
ている農産物は味が安定していない。そ

こで、ただ単に選別して味を一定にする
だけでも、そこに新たなマーケットが生
まれてくる。農産物をどのような品質
でつくり、こういったパッケージで売ると
かというセンスや、食味を安定化させ
る日本的な商品作りができれば、ビジ
ネスとして可能性があるという。

「昔、日本で英語を使うとカッコイイ
とされたように、日本語は品質保証の
代名詞のように使われています。高級
レストランに行ったら、必ず和牛ビーフ
が出てきますよ」

技術を持った日本の農家に期待しています



セミナーDVD
12月10日
発売

オーストラリア・ビクトリア州政府
第一次産業省農務局アドバイザー

鈴木洋司氏
樽本英一郎氏
ディレクター

第43回定例セミナー報告

売り先と価格は自分で決める！

コメ農家の営業術

「一番重要な値段を」

人任せにしないでほしい

セミナーDVD
12月10日
発売

(有)藤岡農産 代表取締役社長

藤岡茂憲氏

ることに気づいた。

「農政が全国的にやれといったときにみんな二者に実行するんです。すると、当然過剰になる。価格は下がります。そして農家が採算取れなくなつて辞めていく。そこで、行政が言うことの反対のことをやっていけば良いのではないかと思つたんですよ」

当時、秋田県のあきたこまちはピークのときは1俵当たり2万2〜3千円。現在の価格の約2倍である。農協に出荷さえしていれば冬の間農家は遊んでいても生活が成り立った。それくらいあきたこまちは評判がよかった。しかし、同氏は慎重だった。周りの農家が農協へどんどん出荷している中、1人産直を始める。90年頃である。

顧客との信頼関係を
いかに築くか

その後、93年の大冷害が起こり、米不足になった。同氏はそのとき二気に顧客を増やした。市場価格では玄米は1俵当たり3〜4万円になつていたが、同氏は米の値上げをせず、顧客を拡大することに専念した。それから15年たったが、当時からの顧客はまだ多く残つており、同社の米はそのときからまったく値上げしていない。

同社はネット販売の導入も早く、さらにHPから設置されたライブカメラで圃場の様子も24時間、見ることがで

きる。

「農場でライブカメラをやっているところはまだ珍しいです。保育所でライブカメラを導入しているのにヒントを得ました。子どもの様子を親がパソコンからいつでも見れるようにしていたのです。お客さんと生産側がどこで接点もてるのかと考えたときに、最後は信頼関係しかないんだと思う。その信頼関係をいかに築くかが非常に大事だと思つています」

播種前にお客さんを
150%確保

同社では、4月までにその年販売する米の販売先、単価を決めてから播種を行う。普通の農家は播種して田植えして施肥して秋になつて、ようやく稲刈りを行う前くらいの時期にならないと農協は買い取り価格を発表しない。そしてようやく、その年の米の値段を農家が知ることができる。そのときはすでに農家は稲刈りの準備に入つてしまつている。

「そんな博打のような農業は、産業としてとてもやっていけない。うちの場合は種まく前にお客さんを150%確保します。50%のお客さんがキャンセルしても売れ残りがないようにするので。もちろん米が足りなくなつたら信頼できる生産者から仕入れて調整しますよ。それが経営です」

11月6日の第43回定例セミナーは「売り先と価格は自分で決める！コメ農家の営業術」と題して藤岡茂憲氏にお話いただいた。同氏の経営する(有)藤岡農産は秋田県北秋田市でコメ35ha、有機大豆34ha、ハウス野菜74棟(2ha)を生産販売している。

当たり前前のごとを

やっつてこなかった農業

製造原価に販売経費と少しの利益

をのせて販売するのは当然である。しかし農業界ではこれをやると変わった人だといわれる。

「自分で作つたものに自分で値段を設定して販売するというのは当たり前。これが農業界で、昔はダメだった。これが原因で農業が立ち遅れてしまった」

以前、同氏はハウスメロンの栽培や肉牛の繁殖などさまざまなことを、国が勧めるがままに複合経営を行つてきた。しかし、同氏は数年、行いうちに

『農業経営者』読者の会

第3回

全国大会

日程

2010年2月10日(水)~11日(木)

会場

晴海グランドホテル2F会議室

東京都中央区晴海3-8-1(都営大江戸線勝どき駅から徒歩7分)

テーマ:未来のための原点回帰

我われが人間として生きること、社会、ビジネス…すべてに原点が存在します。その原点に立ち戻ること未来から逆算する今日を考える時に、多くのものが見えてきます。そもそも農業の原点とは、お天道様の恵みを最大限に利用して、持続性のある形で、より豊かな実りを得ていくことではないでしょうか。読者の会全国大会では、2008年「イノベ

ーションが農場を変える」、2009年「日本農業のNEXT STAGE」に続く2010年のテーマとして「未来のための原点回帰」を提案します。「増収」「適地(適期)適作」「開拓者精神」など、原点回帰するためのキーワードから、現代において農業・農村が提供しうる商品・サービスとは何か、明らかにしたいと考えています。

プログラム

2月10日(水) 10:00~18:00

■基調講演

黒木安馬氏 作家・元国際線乗務員

「真の成功者とはなにか
~事業者としての夢、その実現のために~」
(仮題)

■講演とパネルディスカッション

テーマ: 『増収』

講師: 村井信仁氏 農学博士・村井農場代表

荻原昌真氏 (有)信州ファーム荻原農場長

勝部征矢氏 (農)勝部農場代表

2月11日(木) 10:00~18:00

■基調講演

木内博一氏 (農)和郷園代表

「グローバルな適地適作で
『農業は儲かる』」
(仮題)

■講演とパネルディスカッション

テーマ: 『適地適作』『開拓者精神』

講師: 岩瀬弥隆氏 (有)クリアライズ代表取締役社長

丸田洋氏 (有)穂海代表取締役社長

大塚智子氏 (有)秋田高原フード

第44回

12月11日(金) 16:00~18:00

会場：東京都新宿区高田馬場3-18-25
康洋ビル4階（当社のあるビルの4階です）

農業評論家

土門剛氏 (どもん・たけし)

2010年を生き残るための 「戸別所得補償」対策

鳴り物入りの民主党「農業者戸別所得補償制度」が、いよいよ来年度から動き出す。税金のバラマキに終わるのか？日本農業を後退させる愚策か？いずれにしても現実問題として、我われは生き残らなくてはならない。稲作経営者が来年の作付けと転作の計画を考えるうえで、この政策を集中的に取材をしている農業評論家・土門剛氏のお話を聞いておきたい。



PROFILE

1947年大阪市生まれ。早稲田大学大学院法学研究科中退。農業や農協問題について規制緩和と国際化の視点からの論文を多数執筆している。主な著書は、『農協が倒産する日』（東洋経済新報社）、『穀物メジャー』（共著／家の光協会）、『新食糧法で日本のお米はこう変わる』（東洋経済新報社）など。

会費：一般参加の方は5,000円、『農業経営者』定期購読者の方は今回のみ、会場代1,500円をお願いします。
※終了後、読者の会忘年会(会費3,500円)を開催します！ ぜひご参加ください。

◎参加申込

■参加を希望する項目にして、必要事項をご記入下さい。

月刊『農業経営者』
定期購読者 **無料**

- 12/11(金) 16:00~18:00 第44回定例セミナー
- 12/11(金) 18:30~21:30 忘年会

◎第3回 全国大会資料請求

- 2010年2月10日(水)~11日(木)開催

◎定期購読申込

■いずれかにして、必要事項をご記入下さい。

- 1年(12冊) 18,000円
送料サービス!
- 2年(24冊) 33,000円
お得な3,000円割引!
- 3年(36冊) 45,000円
お得な9,000円割引!

※本誌セミナー(年22回)参加料込(一般5,000円/回)
※本誌セミナー全音声ダウンロード(年22回)込(一般視聴不可)

お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail		FAX
<input type="checkbox"/> セミナー音声聴講パスワード希望		
ご住所 〒		

お申込方法 FAX **0120-410-359**まで送信してください。
(『農業経営者』HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます)

お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。